

経営比較分析表（平成30年度決算）

山口県 宇部市

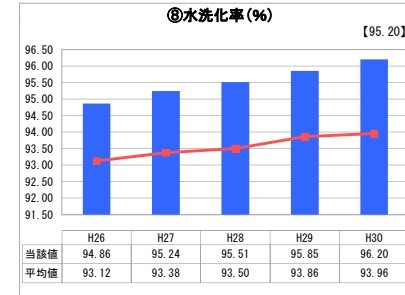
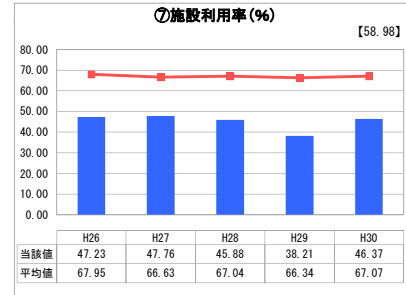
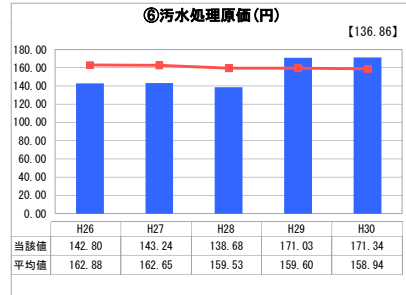
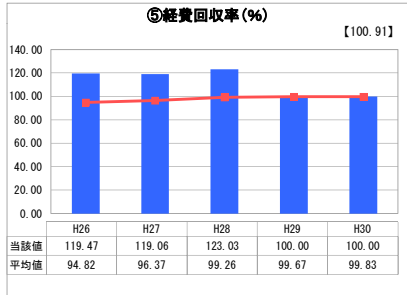
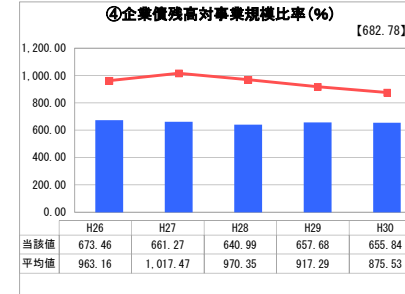
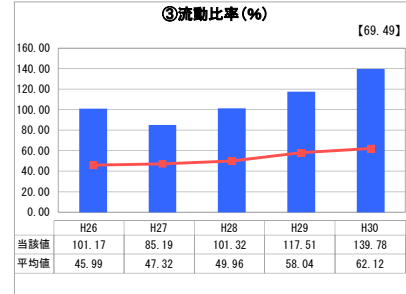
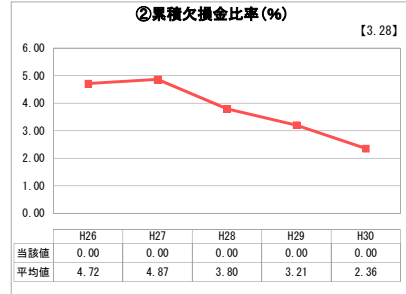
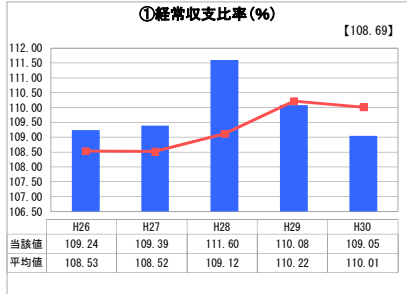
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	67.72	72.83	64.08	3,078

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
165,409	286.65	577.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
120,101	30.43	3,946.80

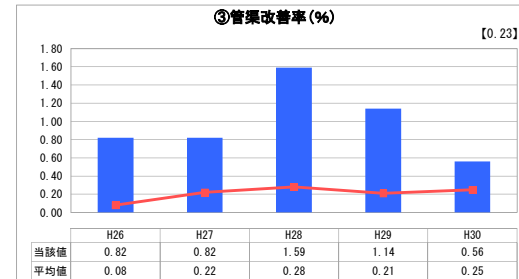
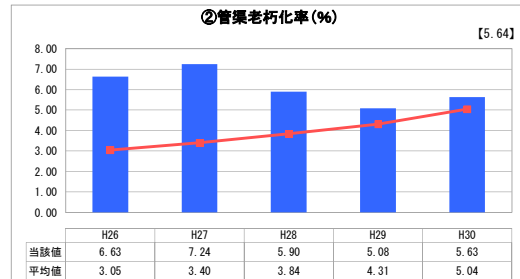
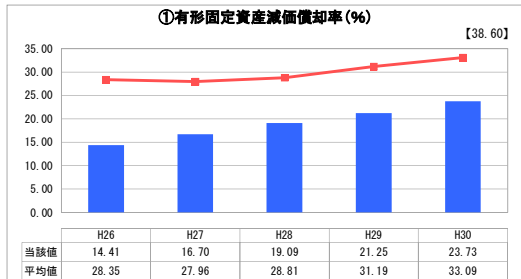
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

単年度収支は黒字で推移し、経常収支比率及び流動比率は100%を超えている。企業債については、新規発行額を償還額の範囲内とすることで残高の抑制に努めており、企業債残高対事業規模比率は類似団体よりも低い水準で推移している。

平成29年度決算から、決算状況調査における「分流式下水道等に要する経費に係る繰出金」の算定方法が全国的に統一された影響で、経費回収率は急激に低下するとともに、汚水処理原価は大幅に上昇している。平成30年度分を従来の方法で算定した場合、経費回収率は116.25%と減少傾向にあり、汚水処理原価は147.40円と増加傾向にある。これらは主に、使用料収入の減少や、施設の補修を事後保全から予防保全に変更して実施したことなどが要因と考えられる。

施設利用率については、本市公共下水道事業は汚水と雨水の両方を処理する合流施設を多く有しており、その施設は雨天時を想定した処理能力となっているため、晴天時においては他団体比べて低い水準になる特徴がある。水洗化率については上昇傾向にあり、引き続き水洗化促進の取り組みを行っていく。

2. 老朽化の状況について

当市の公共下水道事業は事業着手から60年を経過している。有形固定資産減価償却率については、類似団体よりも低い水準となっているが、これは、当市の公共下水道事業が平成22年度から公営企業会計に移行したため、移行するまでの減価償却累計額が反映されていないことによるものである。実際の管渠などの施設については、管渠老朽化率に示されるとおり、類似団体に比べ老朽化が進んでいる状況である。そのため、現在は新規整備よりも改築更新事業を優先して行っている状況である。管渠改善率は類似団体よりも高いが、その水準は決して十分とは言えず、引き続き、カメラ調査等で老朽化の状態把握に努めるとともに、より効果的な改築更新に取り組んでいく必要がある。

全体総括

当市の公共下水道事業は、現時点においては、単年度黒字を計上している。しかし、今後人口減少に伴い使用料収益が減少していくことが見込まれる中、施設の老朽化は進み、事業を継続していくためには改築更新への投資を最優先としなければならない状況である。将来の経営環境は厳しさを増すと予想され、今後においても事業を継続していくために、経費削減をはじめとしたより一層の経営努力を行っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。